

全国調査の結果分析を活用した指導改善の実践例

～4年間の全国調査で正答率が向上している小学校の例～

学校紹介

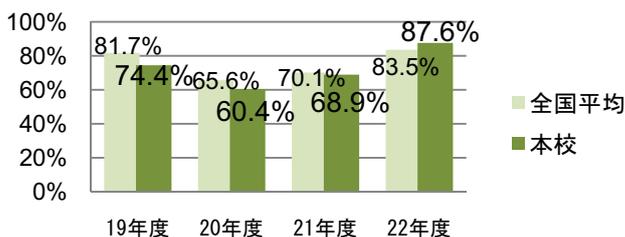
学校種	小学校（明治8年開校）		
学級数 児童数	計10学級 （約210名）	第1学年 1学級（約30名） 第2学年 1学級（約30名） 第3学年 2学級（約40名） 第4学年 2学級（約40名） 第5学年 1学級（約30名） 第6学年 1学級（約40名） 特別支援学級 2学級（3名）	
教職員数	23名	校長・教頭	各1名
		教諭	15名（養護教諭1名を含む）
		非常勤講師	2名
		事務主任	1名
		校務技師・補助員 主任栄養士	2名 1名

○学校の特徴

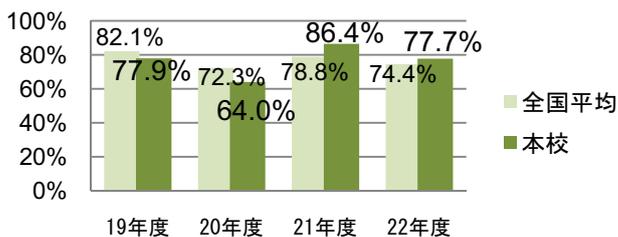
本校の学区は、海運の拠点として発展し、史跡等も多く有する市内に位置し、漁業、農業等が盛んな地域である。本校では、地域の農家と一緒に様々な作物を育てるなどの食農教育を進めたり、地域住民を講師に招いて伝統文化の継承活動を行ったりするなど、地域と密着した学校教育を展開している。

全国学力・学習状況調査の結果における特徴

国語Aに係る正答率



算数Aに係る正答率



本校は、平成19年度の全国調査において、A問題・B問題ともに正答率が全国平均を下回っていた。

そこで、まずは基礎的・基本的な知識・技能の定着をより確実なものとするため、学習に対する態度や生活習慣など基盤づくりの見直しなどの取組を進めてきた。

4回の全国調査の結果をみると、左のようにA問題を基礎的・基本的な知識・技能の定着とともに活用する力も着実に向上してきている。

平成21年度からは、児童同士のかかわり合いの中で、自分自身の思いや考えを修正したり、他の考えを付加したりする言語活動を充実させ、活用する力の育成を図っている。

全国学力・学習状況調査の結果に寄与したと考えられる取組

全国調査の結果分析と対策

平成19年度の全国調査の結果から、基礎的・基本的な知識・技能の定着や学習に対する態度の育成が不十分であることが分かった。このため、早急に学力向上への対策を立てる必要性を感じ、ただちに職員会議で具体的な対応策を検討、指導改善を行った。

本校では、このように全国調査の結果を初年度から活用して学力や学習状況の改善に努め、その後も毎年の調査結果の分析に基づき、児童の実態に合わせた改善を継続して行っている。

○平成19年度全国調査の結果分析と対策（第1段階）

結果分析 平均正答率については、各教科とも全国平均を下回っており、基礎的・基本的な知識・技能から確実に定着を図っていく必要がある。

また 質問紙調査においても、学習に対する態度の育成や学習習慣の定着に改善すべき点がみられる。



	国語A	国語B	算数A	算数B
全国	81.7	62.0	82.1	63.6
本校	74.4	52.0	77.9	52.9



対策1 朝勉強の充実（8：10～8：25）

担任が、基礎学力を付けるためのワークシートを作成し、一人一人の児童の様子をみながら、個別に指導を行う。

月	火	水	木	金
計算	漢字	計算	漢字	計算

*職員会議は、朝ではなく、前日の16時30頃から10分間程度行う。

対策2 学習に対する態度の育成

児童が授業に集中し、学習に積極的に参加するよう、次のような取組に努める。

- ・ 疑問や探究心を湧き立たせるような教材や指導（地域の自然や産業など身近な教材の選択、電子黒板などICTを活用した指導 など）
- ・ 一斉授業における個別指導の充実（習熟度に応じたワークシートの活用や活動形態の工夫 など）
- ・ 教員による評価だけでなく、児童自身による自己評価や、児童同士による相互評価の日常化

対策3 家庭学習の習慣化

家庭学習の時間を10分×学年と設定し、内容の精選、明確な指示、確実な点検を行う。

また、家庭学習の成果を授業で生かしたり、発表したりする場面を設定し、意欲を高める。

例) 授業中に行った音読を、家庭学習で繰り返し練習し、朝勉強の時間に3人グループで音読練習を行う。

これらの練習成果を授業参観で発表し、保護者の家庭学習に対する意識も高める。

〈家庭学習〉
家のみんなに聴いてもらって、自信になりました。



〈朝勉強〉
班のみんなと工夫したり練習したりして、信頼が深まりました。

対策4 忘れ物〇作戦

学習習慣の基本として、まずは忘れ物をなくすことを目指し、家庭とも連携し、次のような取組を進める。

- ・ 前日の持ち物確認を徹底する。
- ・ 一日を振り返り、忘れ物の有無を確認するシートを児童に持たせ、毎日、帰りの会で評価させる。継続できるように、評価は3段階の簡単なものとする。
- ・ 学校だより、学級だよりで保護者の意識も高めるとともに、協力を依頼する。

平成22年度全国学力・学習状況調査の活用に関する研修会提出資料

第3回	国語 分科会	学校名	〇〇立	〇〇小学校
-----	--------	-----	-----	-------

1 全国学力・学習状況調査結果に見る学力の課題

調査問題	年度	A・B	問題番号〔 〕	解答状況及びこの問題を取り上げた意図等	22年度B3二、三は、話し合いの流れを踏まえて、どのような質問（発言）をするよいか判断する力が問われているが、本校の児童は、ほとんど対応できなかった。また、21年度のA7の司会の役割についても正答率は低かった。日常を見ても、思い思いに話すことはできるが、目的を踏まえた話し合いにならず、出し合いで終わることが多い。そのため、目的に応じて話し、聞き、話し合う力の育成は、本校の課題として、全校で共通確認して取り組む必要がある。
育成すべき力	22	B	3三〔写真を使って発表する〕		
	21	A	7〔話し合いを計画的に進める〕		
目的や意図、話し合いの進行に沿って話し合う力。また、司会や提案などの役割を認識して、進行に沿って話し合う力。					

2 改善の目標

平成22年度調査対象学年	平成22年度調査対象学年以外の学年
授業やその他の学校生活の中で、目的や意図に沿って、何を、どう話し合うのかを意識した話し合いをしようとする児童の割合を90%以上にする。	目的や意図を意識して話したり聞いたりしようとする児童の割合を第3学年以上で90%以上にし、司会の役割を認識して話し合いをしようとする児童の割合を第4学年は80%以上、第5学年は90%以上にする。

3 「2」を実現するための授業改善（平成22年度調査対象学年以外の学年の場合）

(1) 今までの指導から改善したところ

今までは、この教材を使って、話し合った話題について振り返り、自分の考えをまとめさせていたが、今回は、モデル学習と班学習によって、話し合いの仕方を振り返るように変更することで、自分たちの話し合いの改善点や進行に沿って話し合うためにはどのようにするとよいかなどに気づき、学習したことを使っていくことにつなげるよう工夫した。

(2) 単元計画等 [現行・新]

学年	4	単元名	くらしの中の世界について話し合おう
指導事項	第3・4学年： A話すこと・聞くこと(1) オ伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項(1)イ(7)、A 話すこと・聞くこと(2) イ		
単元の目標	<ul style="list-style-type: none"> 互いの考えの共通点や相違点を考え、司会や提案などの役割を果たしながら進行に沿って話し合うこと。 言葉には、考えたことや思ったことを表す働きがあることに気付くこと。 		
単元の評価規準	<ul style="list-style-type: none"> 司会や提案などの役割を考えながら、進行に沿って進んで話し合おうとしている。【国語への関心・意欲・態度】 目的に応じ、互いの考えの共通点や相違点を考え、司会や提案などの役割を果たしながら進行に沿って話し合っている。【話す・聞く能力】 考えたことや思ったことを表すために、適切な言葉で表すことが大切であると気付いている。【言語についての知識・理解・技能】 		
時	計画	指導について	
1	●単元の学習目標・学習課題の確認と、ねらいに照らした自分たちの言語活動の課題を認識させる。	●ねらいに即したモデル学習をし、言語活動のイメージを持たせるとともに、自分たちの改善課題も認識させる。	
2	●モデル学習により、目的にそって話し合うための留意点や司会の役割についてイメージを持たせる。		
3	●話し合う題材などを準備する。	●学習したことを活用する場を設け、指導事項を認識させる。	
4	●学習したことを使って話し合いをし、それを振り返るといふかを実感させる。(本時は3時間目)	●生活のどこで活用できるかについても考えさせる。	
5	●学習したことを振り返り、目的にそって話し合うための留意点や司会の役割を整理する。		

(3) 授業展開 ※改善のポイントとなる1時間を抜き出して記入

本時の目標	<ul style="list-style-type: none"> 司会者の役割や留意点を認識し、また、司会者の意図をくみとりながら、目的や進行に沿って話し合う。【A(1) オ】 目的に応じた進行をするために、適切な言葉で表すことが大切であることに気付く。【伝(1)イ(7)】 	
本時の評価規準	<ul style="list-style-type: none"> 司会の役割や留意点を考え、気付いたことを使って話し合いをしようとしている。【国語への関心・意欲・態度】 司会の役割や留意点を認識し、また、司会者の意図をくみとりながら、目的や進行に沿って話し合っている。【話す・聞く能力】 目的に応じた進行をするために、適切な言葉で表すことが大切であると気付いている。【言語についての知識・理解・技能】 	
主な学習活動(学習課題・発問)		指導上の留意点
導入	●本時のねらいと学習課題を確認する。 ねらい:司会の役割や発言の仕方などを考え、目的に応じ、進行に沿って話し合いができるようになる。《一斉》	●ねらい、学習課題、学習方法を確認し、見通しをもって学習できるようにする。
展開	<p>前時までに学習したことに気をつけて話し合いをし、司会の役割や発言の仕方などを考え、進行にそって話し合えるようにする。</p> <ol style="list-style-type: none"> 「話し合う班」が話し合い、「評価する班」が話し合いの様子を記録、観察する。 両方の班で、「話し合う班」の話し合い方を振り返る。 <ol style="list-style-type: none"> 目的にそった結論になったかの確認。 「①」のようになった要因を、司会の役割を中心に考える。 司会の役割を確認し、先ほどの話し合い場面を使って改善例を考える。 	<ul style="list-style-type: none"> 2班一組で学習し、時間を決めて行う。次時には班の組み方と役割を交代して行う。 話し合いの題材はあらかじめ予告し、自分が発言する内容を準備させておく。(家庭学習とも連携) 2)で振り返る視点を、ねらいに即して示しておく。 ねらいに即して気が付いたことをまとめさせ、改善方法も考えさせる。
終末	●各班で気付いたことを学級で発表し、司会の役割と進行に沿って話し合うときの留意点を確認する。《一斉》	●学習を広めたり深めたりし、何を学習したのかを明確に認識させる。

4 「2」を検証するための手立て等

- 単元の評価問題の中に全国学力・学習状況調査と同様の趣旨の問題を作成して入れる(正答率:95%以上)。
- 授業中や日常生活における話し合いの様子を意図的に観察する(3的や意図に沿って話し合いをしようとしている児童:90%以上)。
なお、なかなか実際の話し合いで生かすことができない児童については、日常生活の中で特に留意して支援する。

平成22年10月7日

参加者 様

市教育委員会学校支援課長

学力向上研修会における指導アイデアシートについて（連絡）

北区学力向上研修会への申込み、ありがとうございます。

この研修会では、少人数のグループを編成し、学力向上委員とともに授業改善の在り方を考えていきます。そこで、より充実した研修会にするため、別紙シートにあらかじめ記載していただき、当日のグループ討議の資料としたいと考えました。校内で協議の上、参加者に当日シートをご持参ください。

【記入の方法】

ご自分が参加する校種・教科の指定された課題について、以下の二つを書いてください。

- ①貴校の様子（貴校の平均正答率を記入して、解答類型や授業などからその課題にかかわる児童生徒の様子を書いてください。）
- ②授業の構想（児童生徒の実態を受けて、どのような授業を展開するか書いてください。できるだけ具体的にお書きください。）

【提出の方法】

別紙プリントに記入して、研修会当日、各参加者が10部ずつ持参してください。
（1枚以上になる場合は、裏表印刷にしてください。）

1 小学校国語

課題1（国語A） 設問番号3 物語の登場人物の関係をとらえて書く

課題2（国語B） 設問番号2－（1） 物語を読んで、指示された部分についてあらすじを書く
「授業の構想」については、教科書5年下「大造じいさんとガン」において、上記の課題を意識してどのような授業を展開しようとするかを書いてください。

2 中学校国語

課題1（国語A） 設問番号3－ 演説の話し方の特徴として適切なものを選択する

課題2（国語B） 設問番号2三 資料の修正の方法を選択し、修正の具体的なやり方とその理由を書く

「授業の構想」については、教科書2年「ポスターセッションをしよう」において、上記の課題を意識してどのような授業を展開しようとするかを書いてください。

別紙 指導アイデアシート

学校名	学校	参加者	
-----	----	-----	--

課題1

①貴校の様子（貴校の平均正答率を記入して、解答類型や授業などからその課題にかかわる児童生徒の様子を書いてください。）

②授業の構想（児童生徒の実態を受けて、どのような授業を展開するか書いてください。できるだけ具体的にお書きください。）

課題2

①貴校の様子（貴校の平均正答率を記入して、解答類型や授業などからその課題にかかわる児童生徒の様子を書いてください。）

②授業の構想（児童生徒の実態を受けて、どのような授業を構想するか書いてください。できるだけ具体的にお書きください。）

【記入にあたって】

- ・「改善の方途」は、「どのように授業を改善していくか」を中心にお書きください。
- ・各欄は、箇条書きで結構です。（書き切れない場合は、大きくしてください。）
- ・このプリントに記入して、研修会当日、各参加者が10部ずつ持参してください。
（1枚以上になる場合は、裏表印刷にしてください。）

指導のねらい

物語における登場人物の実体的な関係や構造的な関係をとらえたり、登場人物の性格や心情、相互関係についての理解を深めたりすることができるようにする。

課題の見られた問題の概要と結果

A 3 文学的な文章に登場する人物を相互に関係付けて読む。正答率65.3%(本パンフレットにおける正答率は、抽出調査のため推計値であり、誤差±0.2%程度の精度となっています。)

学習指導要領における領域・内容

〔第5学年及び第6学年〕C 読むこと

ウ 登場人物の心情や場面についての描写など、優れた叙述を味わいながら読むこと。

授業アイデア例

例1 は課題を取り立てて指導する場合、例2 は課題の解決を図る単元を通して指導する場合の具体例

例1 物語における登場人物をカードに書き出し、それらを並べ替えることで、実体的な関係や構造的な関係をとらえる。

1 物語を読み、登場する順番に人物をカードに書き出す。
例：平成22年度調査 A 3 『たったひとりの伝説』 斉藤洋作

2 書き出した登場人物のカードを、物語を設定する上での実体的な関係（家族、同級生など）が分かるように並べ、それらの相互関係を説明する。

3 上記2で並べたカードを、主人公を軸とした構造的な関係（仲間、好敵手など）が分かるように並べ替え、それらの相互関係を説明する。

4 主人公の視点、あるいは、主人公を取り巻く他の登場人物の視点から感想をまとめ、交流する。

【登場人物のつながりが分かるようにカードを並べたもの】



【主人公を軸とした人間関係が分かるようにカードを並べ替えたもの】



〔 , , が示す関係の説明〕

「おじいちゃん」は、「ぼく」を孫として純すいにかわいがっている。だから「ぼく」は「おじいちゃん」に対して気軽に接することができる。
「母さん」は「おじいちゃん」に対して、敬う気持ちをもっている。
「母さん」は、「おじいちゃん」の存在を意識して、「ぼく」に厳しく接している。

例2 朗読の工夫について相互評価することで、登場人物の性格や心情、相互関係についての理解を深める。

第一次

これまでの朗読の仕方について振り返り、学習課題「朗読の工夫について互いに評価しよう」を設定する。
例：平成20年度調査 B 2 『大造じいさんとガン』 椋鳩十作

第二次

物語を読んで、登場人物の性格や心情、相互関係をとらえる。グループごとに朗読する場面を決め、台本を書いて練習する。

第三次

グループごとの朗読を聞き、解釈の仕方について話し合ったり、声の出し方について評価したりする。

【グループごとに書いた台本(例)】

場面	人物 (朗読する人)	セリフ	読み方の工夫	
			声の出し方	理由
残雪を見送る場面	大造じいさん (Aさん)	「セリフ」については、登場人物による会話文だけでなく、地の文も取り上げる。	はっきりと呼びかけるように	ずっと敵対関係でにくく思っていた残雪のことを、正々堂々と勝負するのにふさわしい相手だと認め、来年の勝負を楽しむにしていることを表したいから。
	ナレーター (Bさん)		ゆっくりと落ち着いて	大造じいさんが今までの残雪との関係を思い返したり、これからの残雪との関係を想像したりしていることを表したいから。



「読み方の工夫」については、読み取った登場人物の性格や心情、相互関係を「理由」として、声の大きさ、声の質や速さ、間の取り方などの「声の出し方」に反映できるようにする。

○教科に関する調査

○正答の状況

- 教科に関する調査の平均正答数・正答率は、次のとおりである。

	小学校調査				中学校調査			
	国語		算数		国語		数学	
	A	B	A	B	A	B	A	B
平均 正答数	12.5問 ／15問	7.8問 ／10問	14.1問 ／19問	5.9問 ／12問	26.6問 ／35問	6.7問 ／10問	23.8問 ／36問	6.3問 ／14問
平均 正答率	83.5 ±0.2%	78.0 ±0.2%	74.4 ±0.2%	49.6 ±0.2%	76.1 ±0.2%	66.5 ±0.2%	66.1 ±0.3%	45.2 ±0.4%

【参考】21年度調査

	小学校調査				中学校調査			
	国語		算数		国語		数学	
	A	B	A	B	A	B	A	B
平均 正答数	12.6問 ／18問	5.1問 ／10問	14.2問 ／18問	7.7問 ／14問	25.6問 ／33問	8.3問 ／11問	20.9問 ／33問	8.6問 ／15問
平均 正答率	70.1%	50.7%	78.8%	55.0%	77.4%	75.0%	63.4%	57.6%

○過去の調査との同一問題の正答率の比較

- 小学校調査においては、過去の調査との同一問題 11 問（国語 6，算数 5）のうち、5 問は過去の正答率と比べて大きな差がなく、6 問は今回の方が高くなっている。
- 中学校調査においては、過去の調査との同一問題 12 問（国語 8，数学 4）のうち、3 問は過去の正答率と比べて大きな差はなく、7 問は今回の方が高く、2 問は低くなっている。

		過去の調査と比べて 3ポイント以上 高い問題の数	過去の正答率の前後 3ポイント未満の範 囲にある問題の数	過去の調査と比べて 3ポイント以上 低い問題の数	合計
小学校 調査	22年度 (21年度)	6問 (7問)	5問 (3問)	0問 (1問)	11問 (11問)
中学校 調査	22年度 (21年度)	7問 (4問)	3問 (8問)	2問 (4問)	12問 (16問)

※ 過去の調査とは、昭和 31～41 年度の全国学力調査、昭和 56～58、平成 5～7、13、15 年度の教育課程実施状況調査、平成 16 年度の特定の課題に関する調査、平成 19 年度の全国学力・学習状況調査及び TIMSS（国際数学・理科教育動向調査）を指す。複数回にわたり実施されている場合は、実施年度、対象学年、実施時期が本調査に最も近いものと比較している。
なお、各調査の対象学年や実施時期、問題の全体構成等が異なるため、単純な比較ができないことに留意する必要がある。

○調査時間についての児童生徒の反応

- 解答時間が「やや足りなかった」または「全く足りなかった」と回答した児童生徒の割合は、次のとおりである。

	小学校調査				中学校調査			
	国語 A	国語 B	算数 A	算数 B	国語 A	国語 B	数学 A	数学 B
22 年度	9.4%	17.5%	12.3%	37.4%	5.8%	14.2%	10.4%	24.9%
21 年度	42.7%	37.4%	15.8%	28.6%	5.0%	8.0%	7.1%	13.5%

○今回の調査の結果から明らかになった課題（１）

- これまでの調査と同様、主として「活用」に関する問題（Ｂ問題）では、記述式問題を中心に正答率の低い問題があり、例えば、次のような課題が見られる。

（国語）

資料や情報に基づいて自分の考えや感想を明確に記述すること

小学校国語 B 4 「目覚まし時計の情報」と「家族で決めた条件」という複数の資料から、必要な情報（価格・目覚まし音）を関係付けて読み、時計を一つ選んで、その理由を明確にして説明する。（正答率 65.7%）

中学校国語 B 1 三 新聞記事を読んで、興味をもった記事について、書かれている内容をもとに感想を書く。（正答率 52.6%）

（算数・数学）

日常的な事象について、筋道を立てて考え、数学的に表現すること

小学校算数 B 6 (2) バスのドアの動きを数理的にとらえ、示された考えを基に、円周の長さや直線の長さの大小を判断し、その理由を書く。（正答率 14.9%）

中学校数学 B 5 (2) 道具箱のつくりを数学的に解釈し、成り立つ事柄の特徴を説明する。（正答率 10.0%）

- 一方、主として「知識」に関する問題（Ａ問題）は、平均正答率はＢ問題より高いが、各設問を個別に見ると継続的な課題が見られるものがある。後の学習内容の理解に影響を及ぼすものであるため、Ａ問題の課題についても留意が必要である。

（国語）

文の構成を理解し、伝えたい内容を適切に書いたり、推敲したりすること

小学校国語 A 4 二文を一文にまとめて書く。（正答率 60.6%）

中学校国語 A 4 二 一文を二文に分けるとともに、二文めに主語を補って書く。
（正答率 43.3%）

→ 小学校国語 H21A 8 一文を二文に分けて書く。（正答率 15.0%）

小学校国語 H19A 5 一文を二文に分けて書く。（正答率 57.9%）

中学校国語 H21A 1 主語と対応させて述語を適切に書く。（正答率 50.8%）

（算数・数学）

割合や比例など、2つの数量の関係を理解すること

小学校算数 A 9 (1) 50 m^2 に占める 40 m^2 の割合を求め、小数や百分率などを用いて表す。
（正答率 57.8%）

→ 小学校算数 H21A 7 200人のうちの80人の割合を選ぶ。（正答率 57.1%）

小学校算数 H20A 9 (2) 620冊の40%が何冊かを答える。（正答率 55.1%）

中学校数学 A 9 (3) 比例のグラフから x の変域に対する y の変域を求める。
（正答率 47.8%）

→ 中学校数学 H20A 10 今回と同じ比例式のグラフ上に x の変域を示す。
（正答率 44.1%）

- ⇒ 思考力・判断力・表現力等といった、知識を「活用」する力と合わせ、基礎的・基本的な知識・技能もしっかりと定着させることが重要である。

H 1 9 小学校国語 A 5 一文を二文に分ける。

(57.9%)

5

次の の中の 部には、二つの内容がふくまれています。「ごん」を主語にして、二つの文に分けて書きましよう。

ごんは、ひとりぼっちの小ぎつねで、しだのいっばいしげった森の中に、あなをほって住んでいました。そして、夜でも昼でも、辺りの村へ出てきて、いたずらばかりしました。

(新美南吉「ごんぎつね」による)

(正答例)

- ・ (ごんは、) ひとりぼっちの小ぎつねでした。
- ・ (ごんは、) しだのいっばいしげった森の中に、あなをほって住んでいました。

4

松本さんの学級では、新入生に向けて、これからの学校生活の参考となるように「今、夢中になっていること」という題で文章を書くことになりました。次は、「松本さんが書いた下書き」です。これを読んで、あとの問いに答えなさい。

〔松本さんが書いた下書き〕

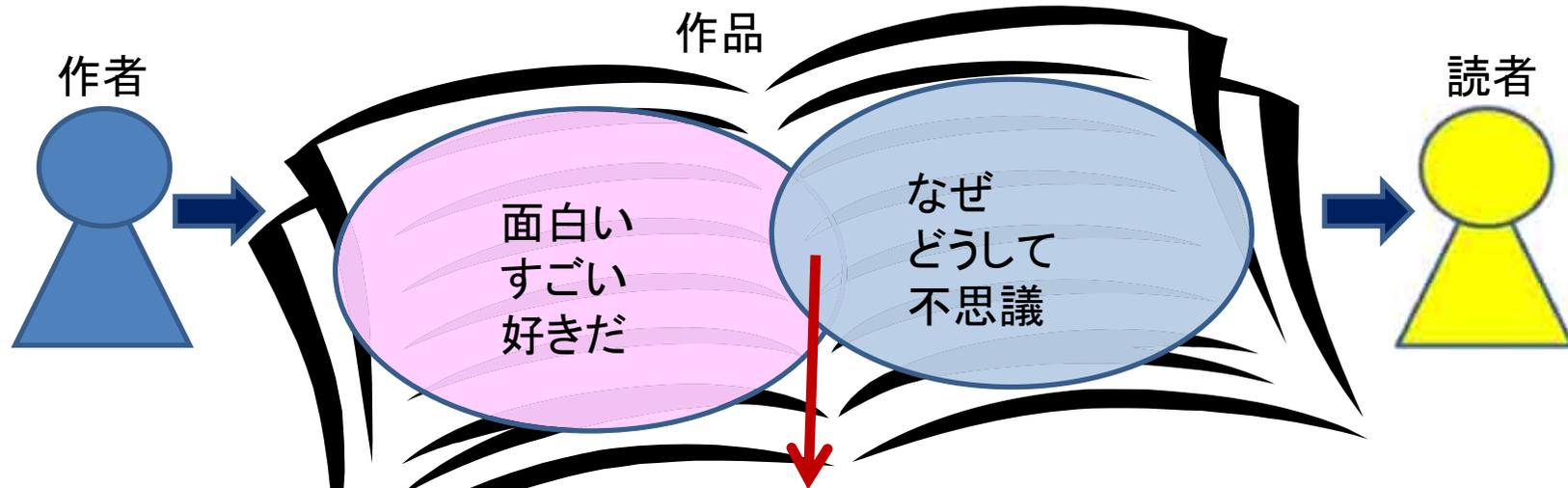
今、夢中になっていること、それは部活動です。
 中学校に入学して、^{初めて}始めて吹奏楽部の生の演奏を聞いたとき、体中に響いてくる音の
 迫力に圧倒されました。そして、迷わず吹奏楽部に入部しました。その後、私の担当は
 フルートに決まりました。それからは、自分でも驚くほどフルートに夢中になっていますいる。
 先日、そばで聞いていた友達から「うまくなつたね。」と言いました。そのとき、
 音が出るまで苦勞したけれど、あきらめずに続けていてよかったですと思いました。
 今、私たちは全国大会出場に向けて練習していて、三年生にとって最大の目標です。
 皆さんも中学校生活の中で、自分が全力で打ち込めることを探してみてください。
 きっと毎日が楽しく充実したものになるはずですよ。

二 ― 線部「今、私たちは全国大会出場に向けて練習していて、三年生にとって最大の目標です。」には二つの内容が含まれています。意味を変えずに二つの文に分けて書きなさい。なお、二文めには「目標です」に対応する主語を補いなさい。

(正答例)

- ・ 今、私たちは全国大会出場に向けて練習しています。
- ・ 全国大会出場は、三年生にとって最大の目標です。

感想をどのように書いているか～感想の質を向上させる



典型的な感想例→主人公が・・・したところが面白かった(不思議だった)。

〔問題点〕

- ▲内容一辺倒(主人公の言動, 心情)
- ▲理由なき感想の羅列(...思った。...思った。)
- ▲解釈止まり, 自己への関与なく
- ▲作品の展開や構造, 作者への無反応
- ▲感想を表す語彙の不足

〔改善例〕

- ①発問の工夫(参考・・・フィンランド型発問)
- ②感動の中心の明確化(対話→体験との比較)
- ③理由や根拠の明確化(引用や要約の能力)
- ④読者を意識したストーリー展開や伏線, 暗示的な表現やレトリック等への着目
- ⑤物語の創作(作者体験→構造, 展開)
- ⑥大作主義からの脱却(観点や条件への適応)
- ⑦感想語彙の獲得(辞書や優秀作品の活用)
- ⑧他者の視点や考えとの交流→違う良さ